

## 薬剤部 DI ニュース

## ★薬剤性腎障害について～どのような薬剤や患者に注意したらよいか～★

腎臓には大量の血液が送り込まれており、その血液中の老廃物(薬剤など)をろ過して排泄する働きがある。そのため高濃度の薬剤による障害を受けやすく、ほとんどの薬剤で腎障害を発現する恐れがある。なかでも「抗生物質」や「非ステロイド性消炎鎮痛剤(NSAID s)」は多く報告されている。また、注意が必要な患者は、加齢により腎障害が低下している「高齢者」になる。早期発見・中止により早期回復し、重症化を防ぐことが出来るため、腎障害の報告がされている薬剤や患者などを把握しておく必要がある。

## 《症状》

- ・ 発熱、発疹、食欲不振、嘔吐、下痢、腹痛、関節痛、倦怠感、手足のむくみ、目が腫れぼったい、体重の増加または減少
- ・ 尿が赤っぽい(血尿)、泡立った尿(蛋白尿)、排尿回数の減少、尿量の増加又は減少

注) 症状は患者や病態によって異なり、軽症ではほとんど現れない

## 【 注意が必要な患者背景と薬剤の確認事項例 】

## ● 患者背景

- ・ 高齢者
- ・ 腎機能障害が既にある患者
- ・ 脱水状態
- ・ 高血圧
- ・ 心不全
- ・ 多発性骨髄腫
- ・ 糖尿病(合併症に糖尿病性腎症)
- ・ 感染症の合併
- ・ 薬物アレルギー歴

## ● 薬剤の確認事項

- ①腎障害の報告などを添付文書等で確認する(表 1 参照)
- ②過量投与、長期投与・・・腎障害の発現率が上がることもある
- ③多剤併用・・・腎障害の報告がある薬剤同士の併用
- ④腎機能検査が必要な薬剤かどうかの確認

〔表 1〕腎障害の報告がある薬剤

抗生物質	36.3%
NSAID s	17.1%
抗悪性腫瘍薬	10.3%
抗リウマチ薬	9.0%
抗てんかん薬	3.0%
消化性潰瘍薬	2.6%
造影剤	2.1%
利尿剤	2.1%
その他	17.5%

## ● 検査・その他の確認事項

- ① 患者の腎機能検査値を確認しておく
- ② 健康食品や一般用医薬品(OTC)などによる腎障害を考慮する

(薬剤部 荻尾)